

正誤リスト

講談社ブルーバックス

『宇宙と物質の起源 「見えない世界」を理解する』

発刊後に判明した正誤リストを順次記載していきます。

(1) 272 ページ、図 9-3 で、上部 2 つ目のプロットの一番下に 0 を入れます。

(2) 同ページ、図 9-3 の 2 つ目の縦軸表記：

事象数 - bkg 事象数

⇒

(事象数 - bkg 事象数) / GeV とします。

具体的には図 9-3 を、

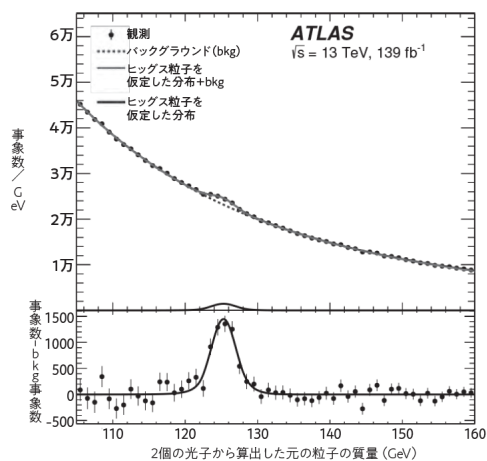


図 9-3 ヒッグス粒子がつくられて 2 個の光子へと変化する現象の実験結果

横軸は測定器が観測した 2 個の光子の情報から算出した元の粒子の質量。縦軸は観測された事象数。黒点がデータ点で、滑らかな分布 (点線: バックグラウンド) の上に 125 GeV 付近の盛り上がり (実線) が、ヒッグス粒子が生成された信号であると考えられている

The ATLAS Collaboration., *Journal of High Energy Physics*, Article number : 27(2022)より ©2022 CERN for the benefit of the ATLAS collaboration

⇒ (赤字部を御参照ください)

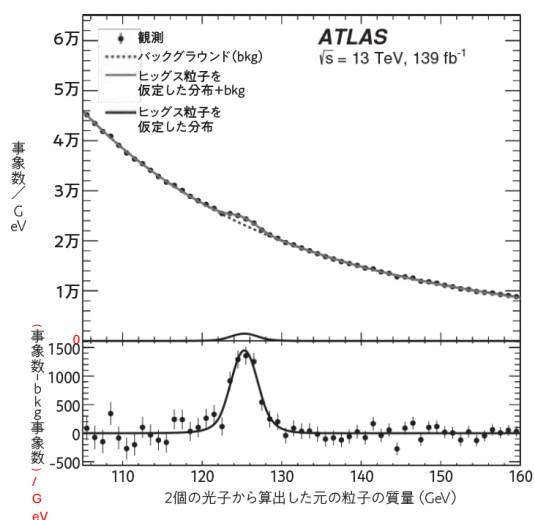


図 9-3 ヒッグス粒子がつくられて2個の光子へと変化する現象の実験結果

横軸は測定器が観測した2個の光子の情報から算出した元の粒子の質量。縦軸は観測された事象数。黒点がデータ点で、滑らかな分布(点線:バックグラウンド)の上に125GeV付近の盛り上がっている部分(実線)が、ヒッグス粒子が生成された信号であると考えられている

The ATLAS Collaboration., *Journal of High Energy Physics*, Article number : 27(2022)より ©2022 CERN for the benefit of the ATLAS collaboration

(3) 15 ページ、第3章目次での後ろから2番目の小見出し:

「r過程が起きている天体の候補:超新星爆発や中性子合体」

⇒ 「r過程が起きている天体の候補:超新星爆発や中性子星合体」、

(4) 119 ページ、小見出し:

「r過程が起きている天体の候補:超新星爆発や中性子合体」

⇒ 「r過程が起きている天体の候補:超新星爆発や中性子星合体」、

(5) 308 ページ、下方から3行目:「誤差をして、」⇒「誤差を考慮して、」、

以下、(18)までは索引情報に関する修正となります。

(6) 314 ページ、索引項目左欄4行目、マルチバース仮説:「301」⇒「299」、

- (7) 314 ページ、索引項目左欄 24 行目「量子ゆらぎ」:「132」⇒「233」、
- (8) 315 ページ、索引項目右欄 6 行目、非摂動限界:「292」⇒「290」、
- (9) 316 ページ、索引項目左欄 32 行目、ダークエネルギー問題:「262」⇒「261」
- (10) 316 ページ、索引項目右欄 1 行目、ダークマター (暗黒物質):
「242」⇒「240」、
- (11) 316 ページ、索引項目右欄 6 行目、大統一力:「287」⇒「285」、
- (12) 316 ページ、索引項目右欄 22 行目、超伝導状態:「287」⇒「285」、
- (13) 316 ページ、索引項目右欄 22 行目、超大統一力:「287」⇒「285」、
- (14) 317 ページ、索引項目左欄 23 行目、宇宙定数問題:「262」⇒「261」、
- (15) 318 ページ、索引項目右欄 16 行目:「J-PARK」⇒「J-PARC」、
- (16) 318 ページ、索引項目右欄 22 行目、LHC(大型ハドロン衝突型加速器):「272」
⇒「270」、
- (17) 318 ページ、索引項目右欄 30 行目、「r 過程 (速い(rapid)中性子捕獲過程):
「113」⇒「112」、
- (18) 318 ページ、索引項目右欄 32 行目、「s 過程 (遅い(slow)中性子捕獲過程):
「113」⇒「112」、
- (19) 9 ページ、2 行目:「欧州合同原子核研究機関」⇒「欧州合同原子核研究機構」

なお、近々公開を予定している点訳版では、上記 (1) から (19) は修正済みです。

2024 年 5 月 1 日
高エネルギー加速器研究所
素粒子原子核研究所